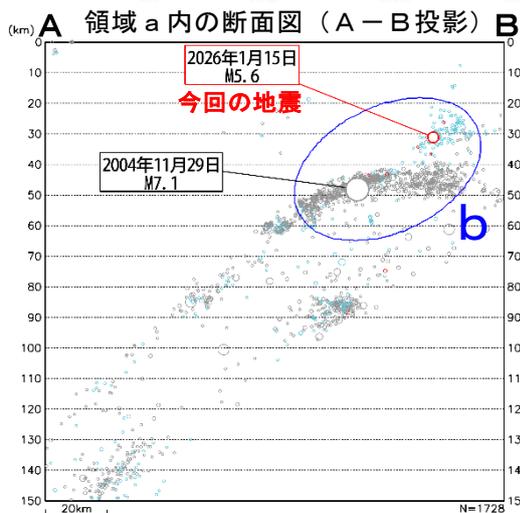
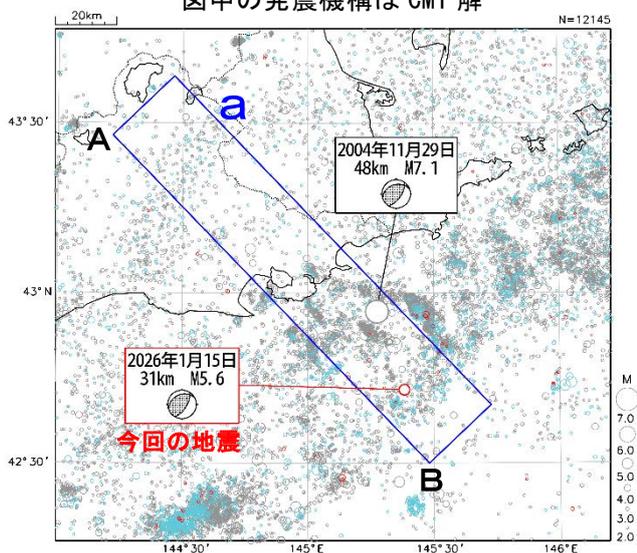
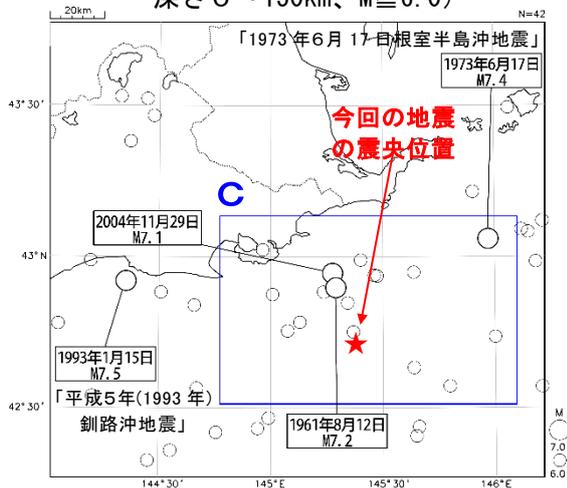


1月15日 釧路沖の地震

震央分布図
 (2001年10月1日～2026年1月31日、
 深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)
 2020年9月以降に発生した地震を水色、
 2026年1月に発生した地震を赤色で表示
 図中の発震機構はCMT解



震央分布図
 (1919年1月1日～2026年1月31日、
 深さ0～150km、 $M \geq 6.0$)

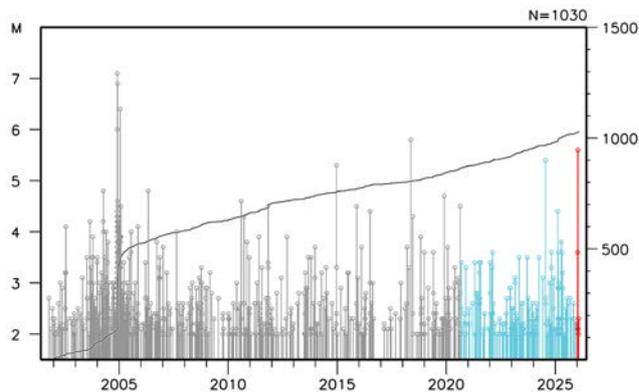


2026年1月15日07時13分に釧路沖の深さ31kmでM5.6の地震(最大震度3)が発生した。発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M5.0以上の地震が時々発生している。2004年11月29日に発生したM7.1(最大震度5強)の地震では、負傷者52人、住家被害5棟などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ12cmの津波を観測するなど、北海道太平洋沿岸東部で小さな津波を観測した(被害は総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M7.0以上の地震が3回発生している。「1973年6月17日根室半島沖地震」(M7.4、最大震度5)では、根室・釧路地方で負傷者26人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ280cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

